

## チェンマイ大学での貢献 (34)

伊藤信孝

チェンマイ大学客員教授・工学部

本報では、わが NPO が JICA との連携で受託継続実施してきた研修事業「小規模農家用適正農機具開発 for small scale Farmers with Japanese MONOZUKURI (ものづくり style)」の補完研修の修了閉校式について報告する。事業の本体は日本の JICA 筑波研修センターで受け入れ実施するが、その修了のあと 3 週間タイのカセサート大学カンペンセン校でさらなる研修を行う。その趣旨は日本のみならず、参加研修員の出身国に近い熱帯地域環境下での農業に触れ、帰国後の業務に役立てることであるが、アジアを代表する農業国タイの農業を講義と実地研修でまかなうもので、本来の農業研修以外に異文化理解、人的ふれ合いと友好親善、タイの大学に対する知見取得、その後のグローバル・パートナーシップ創成ともなる。カセサート大学が主導してプログラムを用意し、関係の講師を招聘、講義に加えてタイにある現地日系農業機械企業訪問視察研修などが含まれる。カセサート大学のカンペンセン校の農業機械センターはもともと JICA を軸に立ち上げられたもので、これまでに農業機械研究とその普及において大きな実績を上げてきたが、タイの経済発展に伴い、農業機械、機械化研究の内容、方向、計測機器の老朽化などが目につくようになってきている。また農業が関わる領域が、これまでは主として食料生産であったが、地球規模の課題、特にエネルギー、環境分野においても農業の果たす役割の重要性が注目され関心を集めている。特に食料生産は年々 8000 万人ずつ増加する世界人口をカバーするためにも極めて重要な緊急課題になりつつある。加えて食料である以上その安全には万全の信頼性が保証されなければならない。規模の大小にかかわらず安全な食料生産とその供給が量的にもタイムリーに成される必要に迫られている。かつての JICA 研修員のなかには、と言うよりも大半の研修員が研修の意味を良く理解していないのではないかと疑いたくなる場面もあった。具体的に言うと JICA のプロジェクトを通じて供与された機材の 1/3 から半数が未利用という状況は珍しいことではない。プロジェクトの終焉と共に破損した部品の供給が遅くなると同時に入手するには有償となって困難になる。したがって自動的に供与された機械が無稼働で広い空間を埃をかぶったまま占拠している。こうした状況を常時見ている研修員に「日本の機械をどう思うか？」と尋ねると返事は決まって「極めて良いが、壊れた時の部品の入手が極めて困難」というのが決まり文句である。そこで認識と誤解を説くために以下のような問答を試みたものである。「あなた方は何のために研修に来ているのか？」と尋ねると日本の進んだ技術を学びに来ていると言う。しかし実際には稼働していない機械が多くを占めて未利用であるのに、部品供給に対する文句は言っても解決策が示されないのはどういうことか。日本からの供与機械は日本での利用を念頭に開発利用されるもので、あなた方の国での利用を優先したものではない。それらはサン

ルとして学ぶには都合が良いが、すぐに問題なく利用できるわけではない。貴方の国の農業は私達日本人よりあなたの方がよく知っている筈である。日本で学んだ知識と技術を使って、あなた自身自身が自国に適した機械を開発設計し、自国で調達できる材料を用いて部品を作り供給すればこうした問題は起きない。このような問題をなくすためにわざわざ予算をつけて研修プログラムを用意しているのであるから、何もかも出来上がったものを据え膳で利用できると考えているのであれば、大きな間違いである。未来永劫継続して研修に来なければならないことになる。帰国後は自国でそうしたことが生じないように研修に参加している事を忘れないで欲しい」と言う時、当時の研修員の一人は「良いことを言ってくれた。これまでそのような事を言う人は居なかった。ありがとう」と感謝されたのを記憶している。

「何事も満足したら、その時点で進歩は止まる」と言う言葉をプロフェッショナルと言われる人から良く聞く。なるほどと頷かされる言葉である。筆者もこの言葉を堅持し、常に挑戦したいと考えている。時には自分に対し「叱咤激励」を目指していても、つい「叱咤叱咤」になるのは満足に至る事への初心を忘れないための持続的警鐘でもある。この閉会式では用意した PPT 資料を用いて祝辞を述べることにした。このような形での祝辞はあまり一般的には見られないが、筆者はチェンマイ大学の教授が毎年新年祝賀パーティーで、卒業する学生および卒業後就職して社会人として参加するかつての研究室の卒業生に対し励ましの言葉を述べることを要請され、こうした対応には慣れている。こうした対応の趣旨はビジュアルな資料を見せることで話の内容を印象づけ、感動と印象、理解を持続させることにある。言葉だけではすぐに忘れる。脳裏に深く記憶としてとどめるには見せられた資料が強烈なインパクトとして記憶に残る。祝辞を述べる側にとっても言い忘れない上に、与えられた話題提供時間をほぼ正確に守ることができる利点もある。月並みで、一般的な対応でもかまわないが、どうすれば自らが言いたいことを鮮明に記憶にとどめ、理解して維持してもらえるかと言う工夫であり、従来方式に満足せず常に改善への努力が物事の成就を成功に結びつけると考えている。いわゆる満足せず、小さな事でも常にその先を求める姿勢を堅持したい。さて PPT 資料を用いたプレゼンによる祝辞であるが、タイトルと内容は以下のようなものである。

タイトル：HOW TO MAKE YOUR LIFE FRUITFUL & SUCCESSFUL（人生を如何に実り多く成功に導くか）

PPTスライドの内容：

- 1) ホスト機関としてのカセサート大学に対する謝辞、JICA の支援、関係企業への謝意
- 2) 研修員全員に対する研修プログラムの成功裏で有益、かつ無事の修了に対する祝辞と帰国後の本来の仕事とそれぞれの人生の考え方、本研修で得た知識や技能の社会への還元、生き方に対する筆者自身の考え方を含め以下のように示唆した。これらは授業でも学生に機会あるたびに、特に学期はじめの最初の講義で激励の意味を込めて「如何にキャンパス・ライフを有益なものにするか」という観点から言い聞かせているものである。

### 3) CONCEPT OF “3V” (Vision, Vitality, Venture)

この概念は半世紀も前にNBN（名古屋テレビ）の海外派遣プログラムに参加した一人であるO氏の話が忘れられず、語り継いでいるものである。言うまでもなく広い視野を持ち、溢れるばかりのバイタリテイで冒険心豊かに何事にも挑戦せよと言う意味である。

### 4) CONCEPT OF “3P” (Paper, Patent, Performance)

本コンセプトは日本のある企業が社とはまでは行かないものの若い技術者教育で掲げ強調し、激励している標語と聞いている。Paper はここでは研究論文を意味し、Patent は独創的アイデアを提案する事への重要性、Performance はいくら能力があっても自分のオリジナルな考えを手際よく相手に理解できるように説明できる能力を持つと言う意味と理解している。研究者も同じで心構えとしては同じくらい重要と考える。

### 5) CONCEPT OF “3T” (I, T, 2T, 3T)

I は一つの専門分野を深く、T という字の縦の棒は専門知識を深く、上の横線は幅広い知識を持つことを指す。2T = T T は専門分野を 2 つ持ち、さらに幅広い知識を持つと言う意味である。3T = T T T はもはや説明は不要であろう。

### 6) $D = (I \cdot J \cdot K)^E$

上式は基本的に、設計においては I : 情報、J : 判断、K : 知識が要ることを示している。すなわち設計する対象について情報、知識を厚め、それらを元に判断する訳で、上記 3 つの要素が必要である事は容易に理解できる。しかしそれだけでは誰にでもできる。最も必要なことは「如何に最善の設計をしたいか」と言う限りない熱意(E: Enthusiasm)がどれほど大きいかを鍵を握る。人生設計も同じで将来のベター・ハーフとなる候補を見つけたら、まず相手の情報を収集し、結婚とは何かと言う知識を持ち、最終的にゴールインまでを決断するかである。しかし上記したように重要な鍵はEであり、相互に「愛」がなければ意味がないことを示す。

### 7) CONCEPT HOW TO SLEEP EFFECTIVELY : 効率よく眠るための概念。

よほどの天才でない限り、他人と大きく差をつけるほどの際だった能力は持ち合わせていない。競争社会では他人に打ち勝つ必要があり、その対応策の一つとして睡眠時間を削減する方法がある。一般人は 1 日 8 時間が平均の睡眠時間と言われる。これを半分にして、他人に勝る能力を維持しようとするとうと疲労がたまり、不規則な生活では体力的にもどうかとの異論が出る。しかし筆者の答えは NO である。不規則でも毎日続ければ規則的と理解できるし睡眠の時間を短縮したのなら、その分深く眠れば良いのである。しかしこの概念は自らがそうしたバイオリズムを作り出す事が必要で、ここでも”継続する”ことが必要である。

8) 大量の仕事を継続して消化することで質を上げ、プロとしての地位を維持できるようになる。なぜMLBに移籍したイチローが 10 年間も毎年いくつかの受賞に輝き、桁外れの安打数と高い打率を維持できてきたか、なぜピカソが画家としてのステータスを維持していたか、共通点は桁外れの量の仕事を継続してこなしてきたことである。ピカソの場合生

涯に残した作品は彫刻、絵画など多岐にわたるが子供の時代 10 年を差し引いてもその量には圧倒される。毎日継続することの重要性を彼ら先人から学び取る事が出来る。

9) EQUATION OF CONTINUITY ~ in human life ~ : 人生における連続の式

流体を扱う分野では系の異なる管を流れる流体が系の細いところでは速く、大きいところでは遅く流れる。人生も同じで卒業、就職、結婚などの人生における主要なイベントにより流れる川幅が異なり、自らの健康、精神、取り巻く経済状態も変わる。それによって流れる速度も速くなったり遅くなったりする。常にコンスタントに順調に人生を送るにはそれなりの自制と管理、調整や努力が必要である。このことを念頭に頑張るって欲しい。

10) 最後に再度祝辞：良き新年を迎えてください。すてきな人生をエンジョイしてください。貴方ならできる。人生を如何に充実したものしたいかという気持ちで全てが決まる。

閉会式のあとフェアウェル・パーティーがあり、その時に一人の研修員が筆者に近づき、日本での講義に引き続き、今日まで大変お世話になった。われわれ研修員を思う貴方の気持ちに深く感謝の意を表したいと体をすり寄せ、半ば涙ぐんでいる姿を目にし、感極まる思いであった。またもう一人の研修員はいつも informative でわかりやすく、励みになるプレゼンを閉校式においてまでして頂き、大変有益であった。誠に申し訳ないがファイルをコピーさせてもらえないかとメモリーを持ってやってきた。断る理由もないので、興味を覚えてもらえたなら望外の喜びと受け止め、またその目的のために用意したものであり、欲しいという希望があったことは、いくらかでも感動を与えたのかなと自分で勝手に判断し、しばし喜びに浸った。



Fig. 1 カセサート大学学長補佐の祝辞



Fig. 2 JICA バンコック事務所所長代理の挨拶



Fig. 3 筆者のPPTを用いた祝辞と挨拶



Fig. 4 挨拶を聞く研修員全員



Fig. 5 研修修了証書を手集合写真撮影



Fig. 6 研修員だけの集合写真撮影



Fig. 7 閉会式終了後のフェアウェルパーティ



Fig. 8 いよいよ別れの時、空港に向かう